

本年度の重点目標

人生を主体的に切り拓く学びの確立

- 1 言語力・学力の向上を図り、自ら考え、学び、行動する力を育む。
- 2 集団活動を通して、社会性や豊かな心を育てる。
- 3 主体的にコミュニケーションする力を育む。

領 域	重 点 評 価 項 目	中間評価(10月)	総合評価 (3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	教育環境を整え、子どもたちが生き生きと活動できる学校づくりに努めている。	B		
	学校と家庭・地域との連携、協力を密に行っている。	B		
2 教育課程・学習指導	基礎学力の定着を図った、丁寧な授業を行っている。	A		
	多様な子どもたちの障害の状況に応じた、授業の工夫・充実に努めている。	A		
	必要に応じて情報手段を適切に用いて情報を得たり、整理・比較したりするなど、子どもたちの情報活用能力(ICT活用能力)の育成に努めている。	B		
3 生徒指導	基本的な生活態度を育むための指導を日常的に行っている。	A		
	子どもたちの生活の様子や実態に合わせた生徒指導を行っている。	A		
	いじめを見逃さないよう、子どもたちの学校生活の状況把握および指導を行っている。	A		
4 進路指導	子どもたちが自己の能力・適性・興味についての理解を深められるように指導している。	B		
	一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てている。	B		
5 保健・安全指導	子どもたちが自らの健康や安全に注意できるよう指導している。	B		
6 人権教育	幅広い人権学習を通して、子どもたちが人権意識を高められるよう努めている。	B		
7 環境教育	子どもたちが環境保全を意識する指導を行っている。(ごみの分別、廃棄野菜の堆肥化など)	B		
	校内の清掃活動を丁寧に行うよう指導している。	B		
8 交流及び共同学習	学校は、インクルーシブな社会の構築につながるように、障害者理解教育を推進することに努めている。	B		
	地域社会の中で豊かに生きることができるよう、地域の同世代の子どもや人々との交流等積極的に取り組みを進めている。	B		
9 教職員の現職教育	聴覚障害教育校としての責務と教育内容を明らかにし、日々の教育に活かしている。	B		
	日々の教育実践について検証・記録を行ない、聴覚障害教育における専門性を高めることに努めている。	B		
	聴覚障害の子どもたちにとってより効果的な授業になるように、ICT活用に努めている。	B		
10 センター的機能の発揮	聴覚特別支援教育のセンター的機能としての役割(0歳からの教育相談・聴能・きこえとことばの教室・その他の事業など)を果たしている。	A		
11 その他学校の取り組み	自校の教育活動を地域に積極的に公開している。	B		
	集団生活を通して子どもたちの社会性や豊かな心を育てている。	B		
	子どもたちの伝えたい気持ちや主体的なコミュニケーション力を育てている。	A		

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。